

ノラは、茶トラの子猫だ。むくむく太ってほわほわの毛、レモン色のまん丸い目。

小村学が初めてノラを見た時、みつばコーポラスの裏階段に、¹毛糸玉のようにコロんとねころがっていたっけ。ああ、かわいい！学はキュートなの子猫をひろって帰りたいくて（A）した。でも、悲しいことに、コーポラスは、ベット禁止だ。そして、三〇一号室に

「有沢のおばば」がいて、規則を破る人間を、FBIばりにチェックしてる！

5 有沢のおばばは、コーポラス管理組合の理事長。生き物が大きらいで、うるさ型の眼鏡おばさんだ。こっそりベットを飼っている家が、おばばに見つかる、もうタイヘン！管理組合の会議にかけられて、こっそり罰金を取られた上にベットは追放、下手すると飼い主までも追放だ。²

だから、学は、ノラにエサをやるのだったって、いいかげん（B）していた。

10 三階建てのコーポラスは、建物の両はしに階段がついている。みんなが使うのは、一号室の^ア手前の表階段。十二号室の向こうの裏階段は、細長い庭をつつきらなと外に出られないからえらく不便だ。

裏階段は、さびれている。人なんかめつたにこない。のら猫と、のら猫にこっそりエサをやりたいたい男の子のためには、とても良い場所—³さみのわるさをがまんすれば。

ページユのペンキぬりの壁には一面にひびわれが走っている。

15 「三階のところにあるデカイヒビは、怪物のギザギザの歯なのよ」
学の妹のくるみは言う。

手すりのペンキもはげちよろけ。

「⁴まだらの大蛇よ。十メートルもあるのよ。ベトベトしてるし、つかむとあばれるわよ」

くるみは をひそめる。

二階の天井には大きなクモの巣。

20 「毒グモよ。まちがいなし」

くるみに言わせると、いつも空気がしめっほくて水みたいなのは、むかしむかし、裏階段はどろ沼の底だったからだそうだ。

くるみは一人ではぜつたいに裏階段に行かない。学がいつしよだと、ついてきて、へんな話ばかりする。いいめいわくだ。くるみの話なんか信じないけど、でも、やっぱり、裏階段は、きみわるい。

25 ノラは裏階段の二階と三階の間のおどり場で、土曜日のお昼を食べていた。お皿にはいったミルクと、ペーパータオルにのったチーズ、シヤケのきれっぱし、煮干し。

「そのコは猫のふりをしてるけど、ほんとに妖怪トラトラお化けなのよ」
くるみはささやいた。

学はくるみの言うことなど聞いていなかった。すっかりノラに見とれていたのだ。なんて、かわいいんだろ。あのピンクの鼻と、小さな口、すてきな金茶色の^イ毛皮。

30 「飼いたいなあ。いつしよに住めたらなあ……」
学は思わずつぶやいた。その時、階段の下から足音が聞こえてきた。コツコツいうハイヒール。⁵きげんな足音。

「にげろっ」
学は空になったお皿をひろい、ペーパータオルをひたたくった。まだ残っていたチーズがこぼれて、⁶ノラは不服そうにビューと鳴いた。

35 「ごめんね。また後で来るよ。ノラも早くにげろっ」
学は小声で言うと、バタバタ階段をかけるはった。くるみも後ろに続いた。

三〇六号室の家に駆けこむ。くるみがボタンとドアをしめる。

「ひゃあ、お兄ちゃんトラトラお化けがついてきたよう！」
⁷くるみは悲鳴をあげた。

40 学がふりむくと、玄関には、ふわふわした金茶色の子猫がいて、くるみのソックスに爪をかけて引きずりおろそうとしていた。
「あれ？ノラがはいっちゃった？どうしよう」

学はさげんだが、ノラは平気な顔。くるみのソックスにはすぐにあきると、^ウ台所にすたすたといっぺった。学とくるみはあわてて追いかける。

廊下に面した台所のすりガラスの窓が三センチくらいあいていた。コツコツと靴音が聞こえる。裏階段の足音の主だ。有沢おばばの緑のスカートと^エ緑色のハイヒールが廊下をコツコツ通ってくるの見える。

45 「おばだ。あぶねえな。なんだよ、三〇一のくせに、裏階段を使うなよ」

学は口の中でつぶやいた。

子猫は、台所の床をころがりながら、うれしがつてグルグルとのを鳴らしている。

お母さんがなんて言うかな？—学は思った。お父さんとお母さんは、親戚のおじさんの家に出かけて留守にしている。

「とにかく、もっとエサをやらうと」

50 学は冷蔵庫の中を調べる。その間、ノラは流しの下をふんふんかきまわり、扉に爪をたててあけようとした。

「なんだよ。ここには包丁しかないよ」

でも、それは学のまちがいだった。米びつのとなりにジャガイモやタマネギの袋があり子猫は爪でビニールを破って、ちょいちょいとタ

マネギを一つ、つまんだした。

「こら。遊ぶなよ」

55 ノラはタマネギにじゃれついた。チヨチヨチヨところがし、追いかけて、爪をたて、前足でだきかかえて、オ後足でけとばす。

「こらっ」

学はタマネギを取りかえそうとしたが、子猫はすばやくて、サッカーボールのように前足でコントロールして、居間のほうにころがして

いく。そして、タマネギもろとも、ソファの下にもぐりこんだ。

学とくるみは、はらばいになってソファの下をながめた。

60 「ねえ、食べてるようー」

くるみがさげんだ。

子猫はタマネギをかじっていた。前足でおさえてつけて、皮の上から、カジカジカジ、木の実を食べるリスのようにかじっていた。

「うげえ」

学はうめいた。学はタマネギが大きらいで生のまま食べるなんて信じられない。

65 「タマネギがすぎなんて、ひどい猫だなあ」

「猫はタマネギなんか食べないわっ」

くるみはきつぱり言った。

でも、ノラはすごい食欲で、生タマネギを丸ごと一個ペロリンとたいらげてしまう。ソファから出てくると、(C)満足した顔で大きくのびをし、おもむろに家中を探検にかかった。

(佐藤 多佳子 「タマネギねこ」より)

問一——線1「毛糸玉のように」の部分に使われている表現技法を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 倒置法 イ 対句 ウ 体言止め エ 比喩 オ 強調

問二——(A)から(C)にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア ビクビク イ ギスギス ウ のんびり エ むずむず
オ うずうず カ どしり キ すっかり ク まったく

問三——線ア、オのうち、他とちがう熟語の読み方をするものを探し、記号で答えなさい。

問四——線2「追放だ」とありますが、どういうことですか。二十字以内で具体的に説明しなさい。

問五——線3「きみのわるさをがまんすれば」とありますが、なぜわざわざ学はきみのわるいこの場所を選んだのですか。その理由を文章中のことばを使って十五字以内で書きなさい。

問六——線4「まだらの大蛇」とはここでは何のことですか。八字程度で書きなさい。

問七——にあてはまる言葉を漢字一字で書きなさい。

問八——線5「きげんな足音」とありますが、この時の学の心情として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 子猫の世話をしていることを他の住人たちに気づかれたと思い、あせっている。
イ かわいらしい子猫を他の住人たちにとられてしまうと、こまっている。
ウ 子猫を守るために誰が来ても戦おうという決意をし、気合を入れている。
エ ここに来るはずのない有沢のおばばの気配を感じ、きみがわるいと思っている。
オ もし有沢のおばばに見られたら大変なことがおこると思い、おそろしく思っている。

問九——線6「ノラは不服そうにビュと鳴いた」とありますが、この文の特徴として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア あわてている学とくるみのあせりとノラのまだ食べていなかった気持ちがお互い高まり緊張感を生んでいる。
イ きみのわるい裏階段に住んでいるノラが普通の猫とは違う様子を読者におわせている。
ウ 学とくるみのあわてぶりに対して全くあわてていないノラを表現することで二人のおさなさを表している。
エ 学とくるみのあせりに対してノラの全く気にしていない様子を重ねて面白い対比を生んでいる。
オ 学の心配を全く気にせず不満そうにしているノラの様子を重ねて今後の不安な空気を予感させている。

問十——線7「くるみは悲鳴をあげた」とありますが、この時のくるみの心情として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア こわいよう イ こまっちゃう ウ なんてついてないだろう
エ 感激しちゃう オ つかまっちゃう

問十一——線8「うげえ」とありますが、この時の学の気持ちの説明として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア ぼくのきらいなタマネギを好むなんてゆるせないと思怒りをおぼえている。
イ タマネギを食べるなんてもうかわいいと思えないとショックを受けている。
ウ おいしくないタマネギを生でまるかじりするなんて変な猫だと思っている。
エ おかしな猫だと知っていたら連れてこなかったのにと後悔している。
オ リスのように器用にタマネギを食べるなんてきみがわるいと思っている。